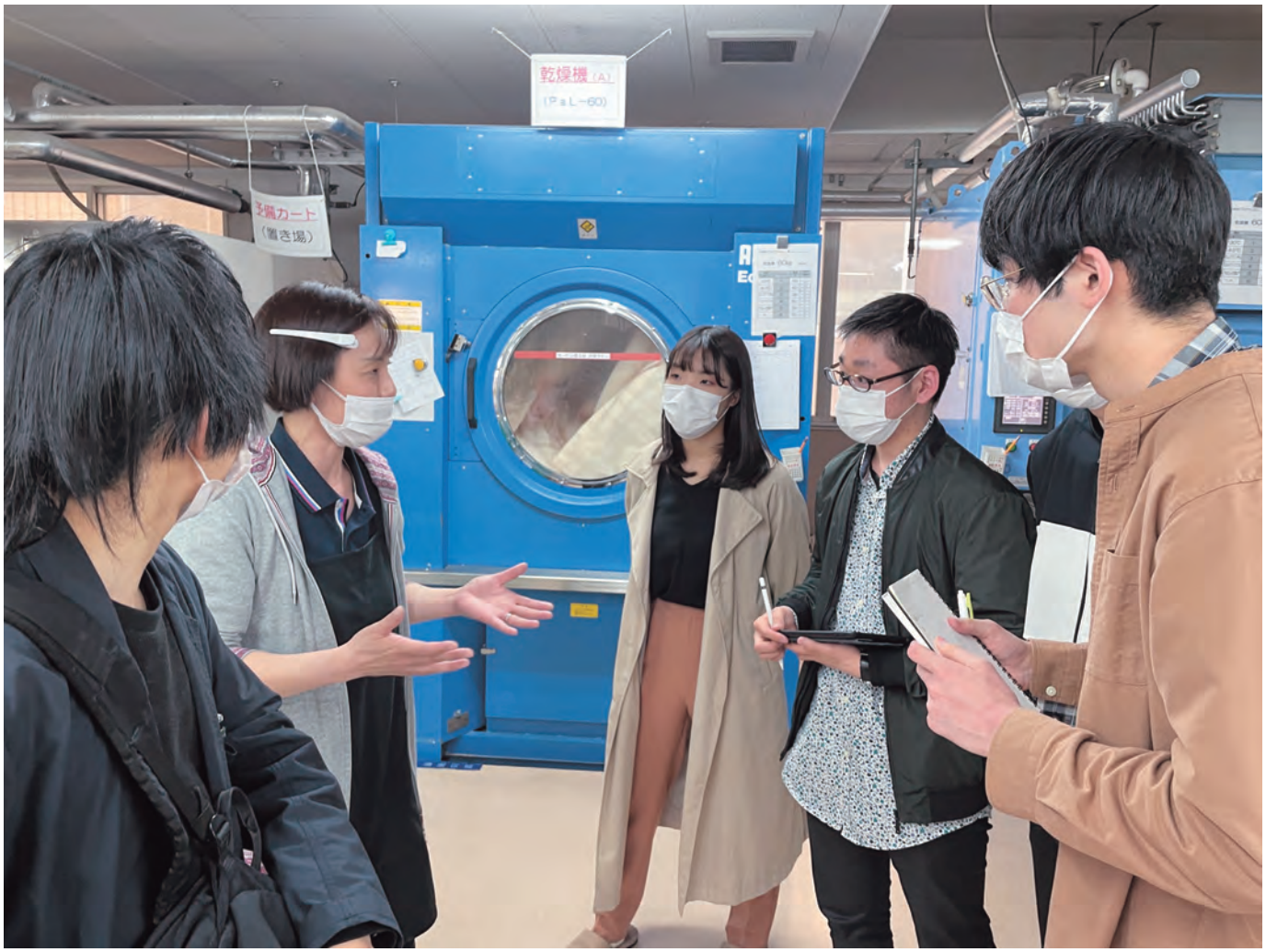
Hokkaido University News

北大時報

令和３年
6

No. 807　June 2021

令和3年度新渡戸カレッジ入校式を開催
2020年度春季「国際インターンシップ」成果報告会を開催



No.807　令和3年

目　次

6

定例記者会見を開催

令和3年度新渡戸カレッジ入校式を開催

全学ニュース

1　第２回　定例記者会見を開催

2　北大フロンティア基金

4　令和３年度新渡戸カレッジ入校式を開催

5　2020年度春季「国際インターンシップ」成果報告会を開催

6　DEMOLA HOKKAIDO 「キングラン北海道チーム」がテレビで紹介

7　円卓会議「ロシア語通訳・翻訳家養成及び語学教育における日露連携」を開催

部局ニュース

8　真のDX（デジタルトランスフォーメーション）を学ぶプロジェクト始動

10　令和３年４月　北海道大学病院内に「医療・ヘルスサイエンス研究開発機構」を発足

諸会議の開催状況　11

学内規定　12

研修

13　令和２年度 技術支援本部研究支援人材育成プログラム
マルチスキル人材育成プロジェクト
部局・分野横断技術交流会を開催

人事　14

15　新任教授紹介

訃報

16　名誉教授　谷　宏　氏

16　准教授　分島　　亮　氏

資料

17　在籍学生数（令和３年５月１日現在）

19　令和３年度外国人留学生数（令和３年５月１日現在）

20　令和３年度国別外国人留学生数（令和３年５月１日現在）

2020年度春季「国際インターンシップ」成果報告会を開催

DEMOLA HOKKAIDO
「キングラン北海道チーム」がテレビで紹介

真のDX（デジタルトランスフォーメーション）を学ぶプロジェクト始動

令和２年度 技術支援本部研究支援人材育成プログラムマルチ人材育成プロジェクト
部局・分野横断技術交流会を開催

表　紙：DEMOLA HOKKAIDO 「キングラン北海道チーム」がテレビで紹介（関連記事6頁に掲載）

裏表紙：キャンパス風景⑮　インフォメーションセンターエルムの森（北8条西5丁目付近）

全学ニュース

第２回　定例記者会見を開催

５月20日（木），本学の特色ある教育研究活動や運営状況等を社会に向けてわかりやすく発信することを目的として第２回定例記者会見を開催しました。新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受け，急遽オンライン形式での開催となりました。吉見　宏理事・副学長（広報室長）の進行のもと，情報科学研究院の樋浦諭志准教授が発表し，北海道教育庁記者クラブ加盟社から７名の参加がありました。発表・報告内容は以下の通りです。

発表事項（発表者）

・半導体スピントロニクス実用化最大の問題「室温動作の壁」を突破！
　～情報技術のブレークスルーとなる世界最高性能の半導体スピン増幅を実現～
　情報科学研究院　教授　　村山　明宏
　　准教授　樋浦　諭志（発表者）

定例記者会見配信会場

発表を行う樋浦准教授

当日の発表者と吉見　宏理事・副学長
（左から吉見理事・副学長，樋浦准教授，村山教授）

Zoomを用いた発表の様子

北大フロンティア基金

北大フロンティア基金は，本学の創基130年を機に，教育研究の一層の充実を図り，これまで以上に自主性・自立性を発揮して大学としての使命を果たすため，平成18年10月に創設しました。

奨学金制度の充実や留学生への支援などの学生支援を中心に，研究支援，学部等支援など様々な事業を行っており，期限を付さない，息の長い募金活動をすることとしています。

皆様には基金の趣旨にご賛同いただき，ご協力をお願いします。

北大フロンティア基金情報 **基金累計額**（５月31日現在）	29,785件　5,496,335,175円

5月のご寄附状況

法人等16社，個人184名の方々から14,088,812円のご寄附を賜りました。

そのご厚志に対しまして感謝を申し上げますとともに，同意をいただいている方々のご芳名，銘板の掲示について掲載させていただきます。（五十音別・敬称略）

寄附者ご芳名（法人等）

株式会社アウレオ，株式会社EHM，いであ株式会社，株式会社NJS，医療法人社団　大山内科医院，株式会社オフィスケーワン，カラオケサークルフリーク，一般財団法人協済会，積水化学工業株式会社，千歳まつもと眼科，株式会社日立プラントサービス，北海道大学ホッケー部OBOG会，メタウォーター株式会社

寄附者ご芳名（個　人）

合川　正幸	相沢　牧彦	青木　清	青木　俊介	青木　宏	姉帯　正樹	池田　敦子	石井　哲夫
石村孝太郎	石森浩一郎	伊丹　儀友	伊藤　広一	乾　賢	井野　智	井上　伸昭	猪股　路子
井原　博	今田　裕一	入澤　秀次	上原　陶子	植松　宏志	浦末　章雄	縁記　和也	遠藤　幸恵
大谷　昌平	大原　正範	岡田　悠	奥田　英信	尾関　俊浩	織田　建造	小田原一史	加賀　幸彦
角　宏幸	加藤　昌治	金川　眞行	兼古　学	河本　充司	川本　泰之	菅野　貴行	衣川　暢子
木全　重之	木村　克輝	桐山　宏紀	黒島　晨汎	小林　賢人	齋田　克明	齊藤　晋	斉藤　久
坂上　祐司	坂本　大介	笹山　顕	佐藤　惣人	佐藤　淳治	佐藤　恒久	三升畑元基	塩野　孝人
志済　聡子	渋谷　進	島田　茂	下沢　英二	Stuhltraeger-中西　眞理	菅原　新也	杉江　和男	鈴木　貴之
関　裕之	瀬名波栄潤	髙島　利彦	田方　宏幸	高野　晃吉	竹森　忠通	田代　淳	田所厚一郎
田中　章夫	谷口　恭	田宮　直彦	筑紫　康男	土家　琢磨	土屋　裕	寺井　継男	寺澤　睦
戸田　純子	豊田　威信	中塚　英俊	中西　大	中村　英二	中村　均	新井田清信	西垣　栄
西田　実弘	花田　秀一	花田　眞吉	原田　祐治	福井　正行	福士　幸治	福嶋　敏	福永　悟郎
藤川　一匡	寳金　清博	本間　克明	前田　博	麻柄　利克	町田　貴裕	松崎　登	松沢　幸一
松田　健一	松原　謙一	三浦　隆	宮田　信幸	宮本　雅章	宮良　経太	村上　幸夫	八重樫　悟
八木　圭祐	矢嶋　剛	藪口　一郎	山折　大	山下　正兼	矢本　嘉則	横山あゆみ	横山　考
吉澤　守	吉田　一郎	吉田　広志	吉田　文夫	和氣　光則			

銘板の掲示（20万円以上のご寄附）

（法人等）

いであ株式会社，株式会社NJS，積水化学工業株式会社，株式会社日立プラントサービス，北海道大学ホッケー部OBOG会，メタウォーター株式会社

（個　人）

池田　敦子，石森浩一郎，伊丹　儀友，坂上　祐司，島田　　茂，田代　　淳，福嶋　　敏，本間　克明，山下　正兼，吉田　一郎

感謝状の贈呈

日本甜菜製糖株式会社　様（令和3年5月7日）

北海道ガス株式会社　様（令和3年5月14日）

ご寄附のお申し込み方法

北大フロンティア基金ホームページの「教職員の方によるご寄附について」にアクセスして下さい。
https://www.hokudai.ac.jp/fund/howto-staff.html

①給与からの引き落とし

ホームページから「北大フロンティア基金申込書（兼・給与口座からの引落依頼書）」をダウンロードし，ご記入の上，卒業生・基金室基金事務担当に提出してください。

②郵便局または銀行への振り込み

卒業生・基金室基金事務担当にご連絡ください。払込取扱票をお送りします。

③現金でのご寄附

寄附申込書に現金を添えて，卒業生・基金室基金事務担当にご持参ください。
申込書は，ホームページから「北大フロンティア基金申込書（教職員現金用）」をダウンロードしてご記入いただくか，卒業生・基金室基金事務担当にもご用意していますので，お越しいただいてからご記入いただくことも可能です。

④クレジットカード決済・コンビニ決済でのご寄附

北大フロンティア基金ホームページ
（https://www.hokudai.ac.jp/cgi-bin/fund/bin/xRegist.cgi）の寄附申し込みフォームから申込をお願いします。

北大フロンティア基金に関する問い合わせ　卒業生・基金室基金事務担当（学内電話　2017）

令和3年度新渡戸カレッジ入校式を開催

新渡戸カレッジでは，「新型コロナウイルス感染防止のための北海道大学の行動指針」に基づき，５月15日（土）の入校式は規模を縮小し，オンライン（Zoom）で配信しました。

基礎プログラム学部教育コース330名，オナーズプログラム学部教育コース156名及び基礎プログラム大学院教育コース36名，オナーズプログラム大学院教育コース５名の，計527名が新渡戸カレッジの各プログラムに入校しました。

学部教育コースでは初めに寳金清博校長（本学総長）から挨拶があり，続いて佐々木亮子フェローによる歓迎の挨拶がありました。修了生及び在校生代表からの祝辞が披露された後，新入校生を代表して吉田志織さんが挨拶を行いました。最後に昨年度に優れた活動を行った学生９名に対し，新渡戸カレッジ奨励賞授与の表彰式が行われ，式は無事に終了しました。

続いて開催した大学院教育コース入校式では，寳金校長による挨拶にはじまり，新渡戸カレッジメンター代表の三嶋　渉メンターの挨拶がありました。その後，修了生代表の小山正登さんによる挨拶と入校生代表のジャカラボティ・スデシナさんの挨拶が行われました。入校式後は，引き続き入校時オリエンテーション及び授業を行いました。

（学務部教育推進課）

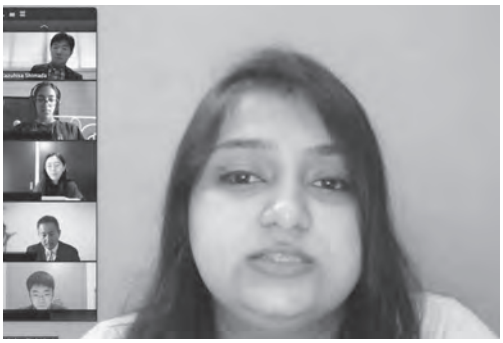
令和３年度５月新渡戸カレッジ入校者一覧

プログラム	コース	入校生数
基礎プログラム	学部教育コース	330
	大学院教育コース	36
オナーズプログラム	学部教育コース	156
	大学院教育コース	5

佐々木フェローの挨拶

入校生代表 吉田さんの挨拶

新渡戸カレッジ寳金校長の挨拶


入校生代表スデシナさんの挨拶

2020年度春季「国際インターンシップ」成果報告会を開催

高等教育推進機構では，５月22日（土）に，2021年２月から３月にかけてオンラインで実施した国際インターンシップの成果報告会を開催しました。

「国際インターンシップ」とは，グローバルに事業を展開する企業・組織等の海外拠点にて，就業体験型として研修を行う実践的キャリア教育プログラムです。研修を通し学生が，国際性とリーダーシップ力を醸成するとともに，グローバルな視点で自らのキャリアや今後の進路について考えることを目的としています。本プログラムは，2016年度に３ヶ国・地域，３拠点，４名を派遣することで試行的に開始され，それ以降，多くの受入企業・組織の支援をいただき，年々プログラムを拡充してきました。2019年度には14ヶ国・地域，48拠点にて実施し，73名を派遣しています。

2020年度は，新型コロナウイルス感染症拡大の影響により海外派遣は実現しませんでしたが，７ヶ国・地域にまたがる11企業・組織の研修先と中継し，初の試みとしてオンラインを活用したインターンシップを実施しました。30名の学生が参加し，研修先及び参加学生の双方から高い評価を得ることができました。

本報告会では，初のオンラインインターンシップに参加した学生のうち29名が，それぞれ研修で得た学びについてオンラインで発表しました。一般参加者の受付は行いませんでしたが，支援企業のご担当者や本学学生・教職員など，学内外や研修先海外拠点から総勢約60名がオンラインで参加しました。学生発表終了後には，参加いただいた企業の方々から講評及び発表学生への励ましのお言葉がありました。

高等教育推進機構では，コロナ禍の環境においても，グローバルな視野を持ち，変化の激しい社会の多様性に対応できる学生を育成するため，本年度夏季も2020年度春季同様，オンラインを活用した国際インターンシップを実施します。

（学務部国際交流課）

成果報告会で開会挨拶を行う山口淳二理事・副学長 開会挨拶

成果報告会で発表した学生

DEMOLA HOKKAIDO「キングラン北海道チーム」がテレビで紹介

５月11日（火），テレビ北海道で現在放映中の「５時ナビ」内「ACT for HOKKIDO」というコーナーで，キングラン北海道チームの取り組みが紹介されました。

キングラン北海道株式会社と本学の学生を含む６大学８名の学生チームが手を組み，３ヶ月という短い期間の中で熱い思いをぶつけ合いながらビジネスアイデアを生み出す取り組みをしています。ぜひ，一度彼らの取り組みをご覧いただけますと幸甚です。

（放送の様子はQRコードを読みとるかこちらよりご覧下さい→https://youtu.be/356t1b9UsFg）

DEMOLAはフィンランド生まれの産官学連携イノベーション創出プラットフォームであり，世界18カ国，60大学が参加している国際的な企業課題解決ネットワークです。学生と企業担当者が一緒にチームを組み，企業のリアルな課題解決に取り組むのが特徴です。文部科学省の次世代アントレプレナーを育成するためのEDGE-NEXT事業の一環として2018年から日本では初めて，本学が導入しました。約３年間をかけて17社20課題に取り組みました。これまでに参加した学生は，北海道大学をはじめ小樽商科大学，北海道情報大学，藤女子大学や札幌大谷大学など様々な地域の11大学から集まり，延べ130名にも上っています。2020年度はフルオンラインでの開催体制も整えたことから，東京理科大学や海外在住の学生の参加も実現しました。現在，2021年度がスタートし，引き続きDEMOLAにご参加いただける企業と学生の募集を行っております。

ご興味のある方は産学地域協働推進機構DEMOLA事務局（demola@mcip.hokudai.ac.jp）までお問い合わせください。

一緒にイノベーションアイデアを生み出す共同創造の場を体感しましょう。

（産学・地域協働推進機構）

撮影に緊張気味なキングラン北海道チームの学生たち

キングラン北海道で実際に話を聞く学生たち

放送内容はこちら
QRコード（YouTube）

円卓会議「ロシア語通訳・翻訳家養成及び語学教育における日露連携」を開催

5月20日（木），サンクトペテルブルク国立大学及び日露大学協会と円卓会議「ロシア語通訳・翻訳家養成及び語学教育における日露連携」を共催しました。これは，文部科学省の「大学の世界展開力強化事業～ロシア等との大学間交流形成支援～（タイプB:プラットフォーム構築プログラム）」により本学が支援を受ける“HaRP”の取組の一環として実施したもので，その専門セクションの一つである「言語・文化・観光」の参画者をはじめ，日本側11大学・20名（うち本学９名），ロシア側18大学・36名，両国の学生３名のほか，言語サービス・語学教育・コンサルティング等の企業10社や通訳13名を含む計80名以上が参加しました。

日本側からスピーカーとして，東京外国語大学の新井　滋特任教授が，日本映像翻訳アカデミー社との共同事業である「J-Anime Meeting in Russia 2020」におけるアニメの選択や字幕翻訳，PR，協賛候補企業へのアプローチ等における日露学生の取組の状況について，また，神戸市外国語大学の金子百合子教授から，ロシア語学科の学生を対象に実施する学術論文の露日翻訳インターンシップや国際イベントにおけるボランティア通訳，日露自治体交流における学生コンテスト，地域コミュニティを支援するコーディネーター養成企画について紹介したのに対し，ロシア側参加者からは，通訳・翻訳の教授法や教材開発，オンライン教育技術等について報告がありました。

一方，ロシア翻訳・通訳教員協会とロシア翻訳家・通訳連合の代表からは，通訳・翻訳家に関する専門的基準の策定や通訳ガイドの免許制度改正等に関する最新情報が共有されたほか，企業関係者からは，雇用者から見た現在特に需要の高い通訳・翻訳の分野や語学専門家に求められるスキル，彼らを養成する上で必要な専門的基準の共同開発等の現状について報告がありました。

参加者からは，大学，企業，業界団体の関係者が一堂に会して議論できた点や各大学が開発した斬新な教授法やアプローチについて知る機会が得られたこと，また，各発表者が扱ったテーマが多様性に富んでいた点を評価する声とともに，両国の求人市場や翻訳家・通訳のメディアリテラシー，AIをはじめとする最新IT技術の活用，学生のインターンシップ受入に際しての条件といった生の情報交換ができる機会を望む声が多く聞かれました。

今回の円卓会議を契機に，言語分野の研究者・実務者のネットワークがさらに発展することで，新たな産官学連携やパートナーシップが生まれていくことが期待されます。

（国際部国際連携課）

円卓会議（オンライン）の様子

開会挨拶をする横田一篤理事・副学長

東京外国語大学の新井特任教授による発表

神戸市外国語大学の金子教授による発表

令和２年度 技術支援本部研究支援人材育成プログラムマルチスキル人材育成プロジェクト　部局・分野横断技術交流会を開催

３月23日（火）に創成科学研究棟において令和２年度技術支援本部研究支援人材育成プログラムマルチスキル人材育成プロジェクト「部局・分野横断技術交流会」-Arduinoを研究支援業務に活用してみよう！-を開催しました（コーディネーター：遠藤　礼暁（電子科学研究所 技術部））。

この「部局・分野横断技術交流会」は，技術職員が自ら企画，運営、講師を担い，各自の持つスキルの継承・伝達・強化を図るとともに，異分野の技術職員と技術を通して交流することで，技術職員同士の全学的な人材交流・技術情報交流・技術強化を目的とした技術支援本部研究支援人材育成プログラムマルチスキル人材育成プロジェクトとして行われました。今回はArduinoと呼ばれるマイコンボードを用いて各種測定データをPCに取り込み活用する方法を実習形式で研修を行いました。

実習はコロナウイルス感染防止対策を万全にして対面方式で行われたほかに，Zoomを用いたオンライン方式でも同時に実施しました。全学の技術職員を対象に受講者を募集し，和歌山研究林や中川研究林など全国各地の技術職員も含め，現地参加14名，Zoom参加８名のあわせて22名で実施しました。

Zoom参加の受講者へは当日使用する機材や部品等の実習キットを事前に配布し，オンラインで配信しながら現地参加者と同時に受講しました。

当日はArduinoの概要説明，必要ソフトウェアのセットアップの後，電子部品等を実際に組み立て，LEDの点灯からその温度変化の測定実験まで行いました。さらに，実際に測定されたデータをPCへ取り込む方法も実践しました。

今回は様々な部局から専門の異なる多くの技術職員が受講し，参加者からは「今後の業務へ活かしていくための新しいきっかけになった」，「情報交換の良い機会になった」等の意見が聞かれ，有意義な交流会となりました。

この「部局・分野横断技術交流会」は今後も様々なテーマで継続して行っていく予定です。

本企画は文部科学省「先端研究基盤共用促進事業（コアファシリティ構築支援プログラム）」（令和２年度～６年度）の一環として実施されました。

（技術支援本部）

現地参加者による対面実習

あらかじめ配布した実習キットを用いたオンライン配信

真のDX（デジタルトランスフォーメーション）を学ぶプロジェクト始動

2021年度北海道大学スマート物質科学を拓くアンビシャスプログラム（以下，SMatS）が開講する「博士課程DX教育プログラム：北海道富良野市のスマートシティ推進支援」がスタートしました。この授業に協力いただく日本オラクル株式会社による４月22日（木）のオンラインガイダンスの模様をダイジェストにまとめて紹介します。

石森浩一郎教授（プログラム担当）の挨拶

みなさん，こんにちは。最近DX（デジタルトランスフォーメーション）という言葉を様々なシーンで聞くようになりました。ですがDXの本当の意味を知っている人はどれだけいるのでしょうか。私も正直，答えられません。これまで紙で処理していた仕事をデジタル化すればいいという安直な話ではないはずです。SMatSで学んでいく皆さんも，私たち研究者もDXの本当の意味，効果を理解しなければ，これからの社会で期待される役割を果たすことは難しいと思います。

オンライン上での集合写真

今回は，IT分野で先進的な取り組みをされている，日本オラクル様に協力いただき，実際に地方自治体とDX化に向けてどのような活動をしてきたのか紹介してもらうことにしました。さらに，これから始まるプロジェクト「北海道富良野市のスマートシティ推進支援」に皆さんに参加してもらい，DXの本当の意味は何なのか，肌で体験してもらいたいと考えています。物質科学の専門分野とは，関係のないプロジェクトと捉える方もいるかもしれません。しかし，DXは社会のあらゆる分野で必要とされ，その分野を発展させるカギとなります。先進的な大学院教育であるSMatSらしいこのプロジェクトに参加することで，我々の社会を大きく変革するDXについて正しく理解し，ここで学んだ経験をこれから先の進路で役立ててもらえることを願っています。

日本オラクルの会社紹介

オラクルのDX推進室をリードしている七尾健太郎と申します。オラクルに対してアメリカに拠点を置く外資系IT企業というイメージを持たれている方が多いと思いますが，日本を拠点に35年間事業展開してきました。日本の市場に株式公開している珍しい外資系会社かもしれません。ですから，日本に深くコミットしている会社とお考えください。札幌にも北海道支社があります。

日本オラクルについて

私たちは情報システム構築のためのクラウドサービスを強みに事業展開してきました。最近特に力を入れているのは，IT技術（データベース管理システム）を，社会課題の解決に利用する取り組みです。日本も科学技術政策として，Society5.0やスマートシティの推進に力を入れようとしており，経済的発展だけでなく，社会課題の解決を両立させようとしています。

次にグローバル企業としてのオラクルコーポレーションについても紹介させてください。

日本オラクルのチャレンジ

これはアフリカ中央部に生息するマウンテンゴリラの写真です。しばらくの期間，世界で700頭弱しか生息が確認されていなく，絶滅の恐れが最も強い「絶滅危惧１Ａ類」に分類されていました。オラクルは，このマウンテンゴリラの生態系を解明し，一頭でも生息数を増やそうという研究に30年以上支援をしてきました。研究資金の提供からスタートし，今ではクラウドを利用したデータ管理システムを用意し，研究者がより詳細で正確な生態記録を残せるようにしました。それまでは研究者が，紙ベースで記録していたので，その記録を価値のある情報として共有・活用できなかったのです。（動画：“霧の中のゴリラ”からクラウド上のゴリラへ：https://www.youtube.com/watch?v=vvsTJ-Oyl3k）今では，１千頭超にまで増え，レッドリストが少し引き下げられたそうです。また昨年来からCOVID-19によって世界中が右往左往している中，２週間で治験を管理するシステムを構築しました。はじめは不具合もあったのですが，失敗を恐れずに，改良を重ねた結果，よりよいシステムがアメリカを中心に使われ始めています。

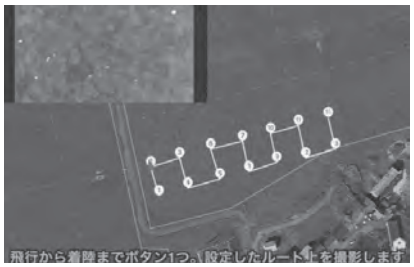
DX：「変革」について

さて，今日のテーマに移ります。皆さんと一緒に「変革」について考えていきましょう。変革は英語でTransformation（トランスフォーメーション）と言い，最近はDigital（デジタル）が加えられ，デジタルトランスフォーメーション，略してDXと言われるようになりました。DTではないんですよね。「trans」とほぼ同じ様に使われるのが「cross」という言葉で英語圏ではアルファベットの「X」で表されることがあります。このXこそが，DXのXにあたります。

ある酪農家のDX事例

さっそく私たちが地域と一緒にDXに取り組んでいる例を紹介します。せっかくの機会なので，北海道での事例

にします。皆さん，ドローンは知っていますよね。そのドローンを利用した取り組みです。北海道は酪農王国で，多くの酪農家は広大な土地を管理しなくてはなりません。そこで何が重要かというと，良い牧草をたくさん育て，牛に食べさせ，良質なミルクを生産することです。良い牧草が生えている土地に，牛を誘導し，生育の悪い牧草地があればその土地を休ませる必要があります。しかし，社会全体で少子高齢化が進んでいる中，一人，もしくは少ない家族の酪農家が，それらの作業を全てこなすことは限界になっていました。



株式会社INDETAIL（本社：北海道札幌市中央区）と株式会社宇野牧場（本社：北海道天塩郡天塩町）の実証実験の様子。2020年10月28日開催の日本オラクル DXウェビナー「“北の国から”学ぶ『6次産業化』で1次産業の所得向上，地域活性を狙え！　～テクノロジーによる6次産業化リスク軽減方法～」講演資料より。（参照：INDETAIL社と宇野牧場社のプレスリリース：https://www.indetail.co.jp/news/20385/）

このような背景をふまえ，鳥の目としての「ドローン」の活用に注目したのです。ドローンを牧草地に飛ばし，その土地の画像を記録していきます。その画像を解析し，良質な牧草，休ませるエリアなどを瞬時に把握できるようにしました。それだけではありません。もう一歩踏み込んで，牛が通るゲートの開閉を自動化しました。ドローンの解析結果に基づいてゲートが自動で開閉し，牛を自在に誘導できる仕組みを作りました。このシステムとデータ管理をオラクルクラウド上で行い，安全に手間をかけずに広大な土地を管理できるようになったのです。さらに副次的な多くの効果をもたらしました。労働にかけていた時間を子供の教育など，別の活動に使えるようになったのです。放牧型のミルクは日本で2％しか搾乳されていません。放牧型の美味しいミルクをたくさん提供できれば，売り上げアップにも繋がります。

このような仕事をしていくと，DXとは何か改めて僕らもよく考えます。DXが2004年に初めて提唱された時の定義は，「デジタル技術の浸透が，人々の生活をあらゆる面でより良い方向に変化させる」ことでした。また，最近の日本政府の方針に目を向けると，経済発展と社会課題解決が両立するSociety 5.0に向けてスマートシティで実験していくと言っています。

それを受けて，経団連はDX提言書（http://www.keidanren.or.jp/policy/2020/038.html）を発行し，Society5.0実現のためには，DXに加えて，多様な人々の想像力と創造力の融合が重要，と言っています。このように，DXはスマートシティの推進と非常に相性が良いのだと思います。

一方，残念ですが，DXが成功している例が日本ではほとんどありません。その少ない例の中から，オラクルが経験的に成功の鍵だと考えているのは，一度俯瞰してみることです。これまで繋がりのなかった集団と一緒に課題を考えてみるなど，まさに産官学など多様な集団が連携して，共に考えることがポイントです。

これから北海道富良野市を舞台にしたスマートシティプロジェクトがスタートしようとしています。富良野市はオラクルなどと「産官」の繋がりはできていますので，そこに3つめの「学」となるみなさんが参加してプロジェクトを推進していくことに期待していますし，この実現を楽しみにしています。

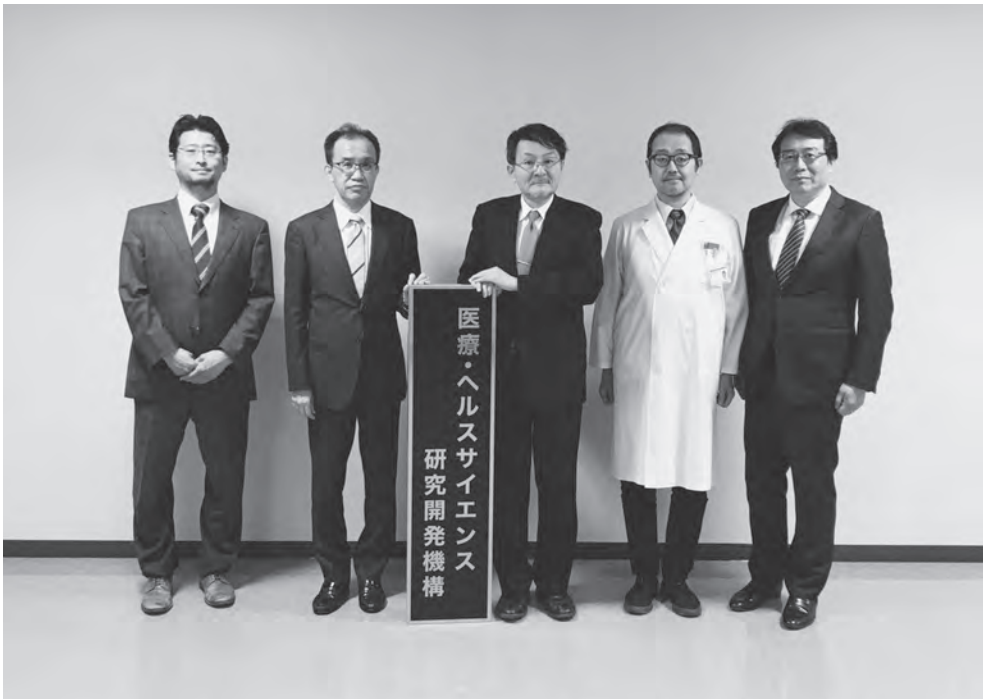
富良野市を舞台にスマートシティの推進について

「北海道富良野市のスマートシティ推進支援」について

オラクルの松井雄介です。これから富良野市を舞台にスマートシティの推進についてみなさんと一緒に考えていくことになります。今回，大学院生のみなさんにはIT企業に就職した社員になったと想定してもらい，クライアントである富良野市様に対して，まちが抱えている課題に対しITを活用したDX提案をします。その作業を通してDXによる社会課題の解決を体験してもらいます。今後，月1回程度の頻度で開催するワークショップを通じて議論を深め，クラウド環境にも実際に触れてもらいながら，最終的には課題解決の提案をプレゼンテーションしてもらう計画です。地域固有の課題もニーズも様々です。それらを調査し，デジタル技術を活用した新しい価値の創造がこのプロジェクトから生まれることを期待しています。

（総合化学院，理学院，工学院，環境科学院，生命科学院，情報科学院）

令和3年4月　北海道大学病院内に「医療・ヘルスサイエンス研究開発機構」を発足



左から，伊藤陽一データサイエンスセンター長，佐藤典宏医療・ヘルスサイエンス研究開発機構副機構長，
秋田弘俊医療・ヘルスサイエンス研究開発機構長，七戸秀夫臨床研究監理センター長，
七戸俊明医療機器開発推進センター副センター長

医療・ヘルスサイエンス研究開発機構

- プロモーションユニット
  - 臨床研究開発センター
  - 臨床研究監理センター
  - 先端診断技術開発センター
  - 医療機器開発推進センター
  - データサイエンスセンター
- 機構運営事務室
- イノベーションユニット
  - 各種プロジェクト
  - 寄附講座
  - 産業創出講座

４月１日（木），北海道大学病院内に「医療・ヘルスサイエンス研究開発機構」が発足しました。

研究支援機能をプロモーションユニットに，研究機能をイノベーションユニットにそれぞれ集約し，相互の連携を強化します。また，臨床研究中核病院としての体制強化や，令和４年度から開始される「橋渡し研究支援機関認定制度」導入に向けた体制整備を行うとともに，大型プロジェクト等による研究体制の整備を行います。新たな体制のもと，より一層，部局間・産学の連携を強化し，ヘルスサイエンス領域研究を推進していきます。

（北海道大学病院）

諸会議の開催状況

役員会（令和３年５月10日）
議　　案・北海道大学創基150周年記念事業企画運営委員会の設置について
協議事項・「国立大学法人北海道大学における内部質保証に関する申し合わせ（令和３年３月23日役員会了承）」の一部改定について
・令和４年度概算要求施設整備事業について
報告事項・時間外労働実績について

経営協議会（令和３年５月17日）
議　　題・総長選考会議委員の選出方法について
・総長選考会議委員の選出について

教育研究評議会（令和３年５月19日）
議　　題・経営協議会の学外委員について
・「国立大学法人北海道大学における内部質保証に関する申し合わせ（令和３年３月23日役員会了承）」の一部改定について
・令和４年度概算要求施設整備事業について
報告事項・総長選考会議委員の選出について
・第４期中期目標・中期計画の策定に係る検討状況及び今後の予定等について
・Hokkaidoサマー・インスティテュート2021の開催について
・未来戦略本部SDGs推進検討部会報告について

役員会（令和３年５月24日）
議　　案・「国立大学法人北海道大学における内部質保証に関する申し合わせ（令和３年３月23日役員会了承）」の一部改定について
・令和３年度教育関係共同利用拠点の認定申請について
・平成30事業年度財務諸表の承認について

※規程の制定，改廃については，「学内規程」欄に掲載しています。

学内規程

北海道大学学生相談総合センター運営委員会規程の一部を改正する規程

（令和３年５月13日海大達第103号）

学生相談総合センター運営委員会（以下「委員会」という。）の運営及び学生相談総合センターの業務をより効率的に行うため，委員会に教員会議を置くことに伴い，所要の改正を行うとともに，併せて規定の整備を行ったものです。

国立大学法人北海道大学国際連携機構規程の一部を改正する規程

（令和３年６月１日海大達第104号）

国際連携機構において，教職協働を推進するとともに，企画，立案及び業務遂行をより円滑に実施するため，副機構長の任命に係る規定を見直すことに伴い，所要の改正を行ったものです。

人事

令和３年６月１日付発令

新　職　名（発令事項）	氏　　名	旧　職　名（現職名）
【教授】		
大学院工学研究院教授	川　村　洋　平	秋田大学教授
大学院工学研究院教授	野　村　竜　司	東京工業大学助教
大学院公共政策学連携研究部教授	岸　　邦　宏	大学院公共政策学連携研究部准教授

新任教授紹介

令和３年６月１日付

公共政策学連携研究部教授に

岸（きし）　邦宏（くにひろ）　氏

公共政策学部門
公共政策学分野

生年月日
昭和45年10月５日
最終学歴
北海道大学大学院工学研究科博士後期課程修了（平成11年３月）
博士（工学）（北海道大学）
専門分野
交通計画，交通政策，都市計画

工学研究院教授に

野村（のむら）　竜司（りゅうじ）　氏

応用物理学部門
凝縮系物理工学分野

生年月日
昭和43年５月18日
最終学歴
京都大学大学院理学研究科博士課程修了（平成12年３月）
博士（理学）（京都大学）
専門分野
低温物理学

工学研究院教授に

川村（かわむら）　洋平（ようへい）　氏

環境循環システム部門
資源循環工学分野

生年月日
昭和48年11月９日
最終学歴
北海道大学大学院工学研究科博士課程修了（平成15年３月）
博士（工学）（北海道大学）
専門分野
鉱山工学，資源開発工学

訃報

名誉教授　谷（たに）　宏（ひろし）　氏

（享年84歳）

名誉教授　谷　宏　先生が令和３年４月28日（水）にご逝去されました。

谷先生は1936（昭和11）年に大阪府吹田市にてご誕生になられ，東京の武蔵高等学校を卒業後，1956（昭和31）年に東京医科歯科大学歯学部に入学されています。1962（昭和37）年３月に同大学をご卒業後，歯科医師免許を取得され，同大学の助手（歯学部予防歯科学教室）として歯学教育者の道を歩まれることになりました。その後，1970（昭和45）年に開設間もない北海道大学歯学部附属病院講師（予防歯科）に着任され，1979（昭和54）年に「学童のう蝕罹患の地域差に関する疫学的研究」で歯学博士の学位を授与されています。1980（昭和55）年には北海道大学歯学部教授（予防歯科学講座）に昇任，以来先生は2000（平成12）年３月に定年退官されるまでの20年にわたり，教育・研究・予防歯科臨床に携わり，2000（平成12）年４月に北海道大学名誉教授の称号を付与されました。学内では，評議員をはじめ様々な委員会の委員を務められ，所属学会では日本口腔衛生学会を初め，多くの学会で評議員や理事，学会長としてご活躍されました。

学生教育では，歯科疾患の大部分は生活習慣病であり予防が可能であること，受診者の生活背景，地域背景を知ることの重要性を強調され，学生に大きな影響を与えられました。また，歯科衛生士や歯科技工士の教育・育成にも尽力されました。加えて，研究室における後進の指導にも熱心に取り組まれ，歯科開業医のみならず行政の歯科医師に多くの優秀な人材を育成，送り出されています。

ここに謹んで心よりご冥福をお祈り申し上げます。

（歯学院・歯学研究院・歯学部）

准教授　分島（わけしま）　亮（まこと）　氏

（享年51歳）

准教授　分島　亮　先生が，令和３年５月26日（水）に逝去されました。ここに生前のご功績を偲び，謹んで哀悼の意を表します。

先生は，昭和45年大阪府に生まれ，平成４年３月に東北大学工学部材料物性学科を卒業後，同大学大学院工学研究科原子核工学専攻修士課程，博士課程に進学され，博士（工学）の学位を授与されました。

学位取得後，東北大学素材工学研究所教務職員，教務技官を経て，平成９年６月より北海道大学大学院理学研究科化学専攻助手として採用されました。その後，平成13年12月に講師，同20年4月に大学院理学研究院化学部門准教授に昇進されました。

先生は無機固体化学をご専門とし，希土類元素を含む遷移金属酸化物やカルコゲナイドを対象とした研究で，特異な金属－絶縁体転移を示す物質や新たな超伝導物質の発見など多くの業績を上げられました。これらの成果は高く評価され，平成18年に日本化学会北海道支部奨励賞，平成20年に日本希土類学会奨励賞（足立賞），平成28年に日本物理学会第21回論文賞がそれぞれ授与されました。近年は，固体物質の物性に対し，様々な測定手法に加えて計算化学の面からもアプローチし，さらなる研究の展開・深化へ向けて邁進していた矢先のご逝去でした。

教育面では全学教育科目や専門科目，学生実験等を担当され，コロナ禍でのオンライン授業にも熱心に取り組まれており，研究指導では学生自らに考えさせ成長を促すスタイルで多くの優れた人材を輩出されてきました。その一方で，問題を抱えた学生に対しても簡単に突き放さずに根気よく親身に対応する，思いやりのある先生でした。

以上のように，先生は研究活動，学協会活動および教育活動に尽力され，人材育成にも大きく貢献されました。

先生の長年にわたるご貢献に感謝し，謹んで心よりご冥福をお祈り申し上げます。

（理学研究院・理学部）

資料

令和３年７月５日修正版

在籍学生数（令和３年５月１日現在）

（注）１（　）内は女子の内数，〈　〉内は女子の比率。
２［　］内は２年次編入学定員で外数。
３〔　〕内は３年次編入学定員で外数（工学部は高専卒業者の受入れ）。
４以下の表は，すべて外国人留学生数を含む。

■学部

学部等名	入学定員	在籍者数							研究生	聴講生	科目等履修生	特別聴講学生	合計
		1年次	2年次	3年次	4年次	5年次	6年次	計					
文学部	185人［　人］	一人	192人	188人	229人	一人	一人	609人 (255〈41.9%〉)	42人	5人	2人	13人	671人 (291〈43.4%〉)
教育学部	50　〔10　〕	—	51	60	68	—	—	179 (71〈39.7　〉)	10	1	2		192 (80〈41.7　〉)
法学部	200　［10　］〔10　〕	—	220	222	252	—	—	694 (206〈29.7　〉)				7	701 (210〈30.0　〉)
経済学部	190	—	201	208	221	—	—	630 (124〈19.7　〉)	13			4	647 (132〈20.4　〉)
理学部	300	—	310	324	373	—	—	1,007 (217〈21.5　〉)			1	8	1,016 (221〈21.8　〉)
医学部	287　［5　］	—	298	312	285	121	106	1,122 (499〈44.5　〉)	3				1,125 (499〈44.4　〉)
歯学部	53	—	48	54	54	56	44	256 (109〈42.6　〉)	1				257 (109〈42.4　〉)
薬学部	80	—	80	83	78	30	30	301 (132〈43.9　〉)	2		3		306 (133〈43.5　〉)
工学部	670　〔10　〕	—	666	721	798	—	—	2,185 (277〈12.7　〉)				12	2,197 (283〈12.9　〉)
農学部	215	—	212	220	231	—	—	663 (258〈38.9　〉)	2	3		1	669 (258〈38.6　〉)
獣医学部	40	—	44	43	42	42	40	211 (115〈54.5　〉)					211 (115〈54.5　〉)
水産学部	215	—	217	218	220	—	—	655 (170〈26.0　〉)	3		2		660 (170〈25.8　〉)
現代日本学プログラム課程	–	—	21	16	12	—	—	49 (30〈61.2　〉)					49 (30〈61.2　〉)
総合教育部	–	2,654	—	—	—	—	—	2,654 (775〈29.2　〉)				206	2,860 (891〈31.2　〉)
合計	2,485　［15　］〔30　〕	2,654	2,560	2,669	2,863	249	220	11,215 (3,238〈28.9　〉)	76	9	10	251	11,561 (3,422〈29.6　〉)

※学部の入学定員は、学生が第２年次に進級した場合の入学定員である。

■研究所等

研究所等名	研究生	特別研究学生	日本語・日本文化研修生	日本語研修生	合計
人獣共通感染症国際共同研究所	1人	人	人	人	1人　(0〈　0.0〉)
量子集積エレクトロニクス研究センター	1		—	—	1　(0〈　0.0〉)
低温科学研究所			—	—	0　(0〈　0.0〉)
電子科学研究所			—	—	0　(0〈　0.0〉)
遺伝子病制御研究所	1		—	—	1　(0〈　0.0〉)
触媒科学研究所	3		—	—	3　(0〈　0.0〉)
スラブ・ユーラシア研究センター	1		—	—	1　(1〈100.0〉)
情報基盤センター	3		—	—	3　(2〈　66.7〉)
国際連携機構			—	—	0　(0〈　0.0〉)
総合博物館			—	—	0　(0〈　0.0〉)
北方生物圏フィールド科学センター	5		—	—	5　(2〈　40〉)
高等教育推進機構	4		36	3	43　(27〈　62.8〉)
合計	19	0	36	3	58　(32〈　55.2〉)

■大学院

（注）法学研究科の専門職学位課程の上段は３年課程，下段は２年課程の学生数。
生命科学院の博士課程の上段は３年制博士後期課程，下段は４年制博士課程の学生数。
医学院の修士課程１年次の上段は公衆衛生学１年コースの学生数。

研究科名	修士課程（博士前期）				専門職学位課程					博士課程（博士後期及び博士一貫）						研究生	聴講生	科目等履修生	特別研究学生	特別聴講学生	合計
	入学定員	在籍者数 1年次	2年次	小計	入学定員	在籍者数 1年次	2年次	3年次	小計	入学定員	在籍者数 1年次	2年次	3年次	4年次	小計						
文学院	90人	94人	112人	206人 (112〈54.4%〉)	一人	一人	一人	一人	一人	35人	29人	45人	26人	一人	100人 (45〈45.0%〉)	人	1人	1人	1人	人	309人 (159〈51.5%〉)
文学研究院	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	8					8 (4〈50.0〉)
文学研究科	—	—	7	7 (3〈42.9〉)	—	—	—	—	—	—	1	1	73	—	75 (39〈52.0〉)						82 (42〈51.2〉)
法学研究科	20	19	25	44 (25〈56.8〉)	50	23 16	11 12	10 —	72 (23〈31.9〉)	15	5	7	13	—	25 (7〈28.0〉)	14			1	5	161 (66〈41.0〉)
情報科学院	179	193	203	396 (39〈9.8〉)	—	—	—	—	—	43	43	38	27	—	108 (20〈18.5〉)				1	1	506 (60〈11.9〉)
情報科学研究院	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	5					5 (0〈0.0〉)
情報科学研究科	—	—	4	4 (0〈0.0〉)	—	—	—	—	—	—	—	—	37	—	37 (5〈13.5〉)						41 (5〈12.2〉)
薬学研究院	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—						
水産科学院	114	128	102	230 (63〈27.4〉)	—	—	—	—	—	19	21	14	25	—	60 (14〈23.3〉)				3		293 (78〈26.6〉)
水産科学研究院	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1					1 (0〈0.0〉)
環境科学院	159	157	180	337 (107〈31.8〉)	—	—	—	—	—	63	48	40	78	—	166 (58〈34.9〉)				2	1	506 (167〈33.0〉)
地球環境科学研究院	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	12					12 (3〈25.0〉)
理学院	127	126	140	266 (60〈22.6〉)	—	—	—	—	—	55	38	38	67	—	143 (30〈21.0〉)				5		414 (90〈21.7〉)
理学研究院	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	10					10 (3〈30.0〉)
農学院	142	191	177	368 (130〈35.3〉)	—	—	—	—	—	36	34	52	67	—	153 (44〈28.8〉)				1		522 (175〈33.5〉)
農学研究院	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	8					8 (4〈50.0〉)
生命科学院	132	129	136	265 (101〈38.1〉)	—	—	—	—	—	44 6	46 7	45 3	52 2	— 7	162 (45〈27.8〉)				1		428 (146〈34.1〉)
先端生命科学研究院	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1					1 (1〈100.0〉)
教育学院	45	43	53	96 (54〈56.3〉)	—	—	—	—	—	21	12	21	67	—	100 (48〈48.0〉)			2	1	1	200 (106〈53.0〉)
教育学研究院	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	2					2 (2〈100.0〉)
国際広報メディア・観光学院	47	49	61	110 (79〈71.8〉)	—	—	—	—	—	12	15	15	47	—	77 (40〈51.9〉)				1		188 (120〈63.8〉)
メディア・コミュニケーション研究院	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	21					21 (16〈76.2〉)
保健科学院	40	54	61	115 (61〈53.0〉)	—	—	—	—	—	10	22	19	19	—	60 (20〈33.3〉)						175 (81〈46.3〉)
保健科学研究院	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	13					13 (8〈61.5〉)
工学院	326	388	385	773 (106〈13.7〉)	—	—	—	—	—	69	64	77	82	—	223 (38〈17.0〉)				6	3	1,005 (147〈14.6〉)
工学研究院	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	28					28 (9〈32.1〉)
総合化学院	129	164	154	318 (64〈20.1〉)	—	—	—	—	—	38	46	58	54	—	158 (42〈26.6〉)				2		478 (107〈22.4〉)
経済学院	35	38	43	81 (43〈53.1〉)	20	15	20	—	35 (6〈17.1〉)	8	9	6	12	—	27 (11〈40.7〉)				1		144 (61〈42.4〉)
経済学研究院	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—						
経済学研究科	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	6	—	6 (0〈0.0〉)						6 (0〈0.0〉)
医学院	20	1 23	21	45 (22〈48.9〉)	—	—	—	—	—	90	100	91	107	120	418 (102〈24.4〉)				5		468 (125〈26.7〉)
医学研究院	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	5					5 (1〈20.0〉)
医学研究科	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	3	49	52 (10〈19.2〉)						52 (10〈19.2〉)
歯学院	—	—	—	—	—	—	—	—	—	40	34	50	33	40	157 (60〈38.2〉)						157 (60〈38.2〉)
歯学研究院	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	5					5 (2〈40.0〉)
歯学研究科	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1	1 (0〈0.0〉)						1 (0〈0.0〉)
獣医学院	—	—	—	—	—	—	—	—	—	16	13	5	14	15	47 (13〈27.7〉)						47 (13〈27.7〉)
獣医学研究院	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	5					5 (0〈0.0〉)
獣医学研究科	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	2	2 (1〈50.0〉)						2 (1〈50.0〉)
医理工学院	12	12	14	26 (3〈11.5〉)	—	—	—	—	—	5	6	3	10	—	19 (0〈0.0〉)						45 (3〈6.7〉)
国際感染症学院	—	—	—	—	—	—	—	—	—	12	19	9	9	17	54 (23〈42.6〉)				13		67 (33〈49.3〉)
国際食資源学院	15	16	21	37 (22〈59.5〉)	—	—	—	—	—	6	8	1	6	—	15 (8〈3.3〉)						52 (30〈57.7〉)
公共政策学教育部	—	—	—	—	30	32	39	—	71 (19〈26.8〉)	—	—	—	—	—	—			2			73 (19〈26.0〉)
公共政策学連携研究部	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	6					6 (3〈50.0〉)
合計	1,632	1,825	1,899	3,724 (1,094〈29.4〉)	100	86	82	10	178 (48〈27.0〉)	643	620	638	936	251	2,445 (723〈29.6〉)	144	1	5	44	11	6,552 (1,960〈29.9〉)

（学務部学務企画課）

令和３年度外国人留学生数

【部局別】

学部等

令和３年５月１日現在

部局名	国費留学生		外国政府派遣留学生		私費留学生		合計
	学士課程	研究生等	学士課程	研究生等	学士課程	研究生等	
文学部	2（1）				2（2）	53（31）	57（34）
教育学部		1（1）				8（5）	9（6）
法学部					1	7（4）	8（4）
経済学部		1			3（1）	16（8）	20（9）
理学部	2（1）				26（9）	8（4）	36（14）
薬学部	1				1（1）	2	4（1）
工学部	32（3）				20（4）	11（5）	63（12）
農学部					4（4）	1	5（4）
獣医学部					1（1）		1（1）
水産学部					3（1）	3	6（1）
総合教育部	5（2）				29（15）		34（17）
現代日本学プログラム課程	4（2）				43（27）		47（29）
合計	46（9）	2（1）			133（65）	109（57）	290（132）

大学院等

部局名	国費留学生				外国政府派遣留学生				私費留学生				合計
	修士課程	専門職学位課程	博士課程	研究生等	修士課程	専門職学位課程	博士課程	研究生等	修士課程	専門職学位課程	博士課程	研究生等	
文学院	3（1）		10（8）						88（65）		35（24）	1（1）	137（99）
文学研究院												5（3）	5（3）
文学研究科											27（16）		27（16）
法学研究科			1（1）	1（1）					33（23）		9（1）	15（7）	59（33）
情報科学院	3		6（3）				2（1）		27（6）		36（11）	2（1）	76（22）
情報科学研究院				1								3	4
情報科学研究科											14（5）		14（5）
水産科学院			4（1）				1		18（11）		18（5）	3（1）	44（18）
環境科学院	8（1）		9（3）				2（1）		75（35）		70（28）	2（2）	166（70）
地球環境科学研究院				2								10（3）	12（3）
理学院	1		8（6）						25（10）		23（4）	1	58（20）
理学研究院												7（2）	7（2）
農学院	15（13）		16（7）				2（1）		34（16）		39（20）	1（1）	107（58）
農学研究院												5（4）	5（4）
生命科学院	4（1）		20（11）				3（2）		41（21）		37（10）	1	106（45）
先端生命科学研究院				1（1）									1（1）
教育学院			2（1）						33（28）		15（11）	1（1）	51（41）
国際広報メディア・観光学院	2（1）		5（4）						79（59）		22（15）	1（1）	109（80）
メディア・コミュニケーション研究院												19（15）	19（15）
保健科学院	1（1）								16（7）		12（7）		29（15）
保健科学研究院				2（2）								10（6）	12（8）
工学院	17（3）		22（4）				9（3）	2（1）	100（21）		68（21）	7（2）	225（55）
工学研究院				2（1）								26（8）	28（9）
総合化学院	2（1）		6（4）				4（2）		43（11）		65（24）	2（1）	122（43）
経済学院	3（1）		3（1）						65（39）		16（7）	1（1）	88（49）
経済学研究科											1		1
医学院	1		7（6）				2（2）		4（2）		33（17）	1（1）	48（28）
医学研究院												3（1）	3（1）
歯学院			1（1）								29（15）		30（16）
歯学研究院												2（1）	2（1）
獣医学院			15（4）								8（4）		23（8）
獣医学研究院												3	3
獣医学研究科											1（1）		1（1）
医理工学院									2		6		8
国際感染症学院			20（11）								14（4）		34（15）
国際食資源学院	1（1）		3（2）						9（6）		7（4）		20（13）
公共政策学教育部										20（9）			20（9）
公共政策学連携研究部												6（3）	6（3）
人獣共通感染症国際共同研究所												1	1
量子集積エレクトロニクス研究センター												1	1
遺伝子病制御研究所												1	1
触媒科学研究所												3	3
スラブ・ユーラシア研究センター												1（1）	1（1）
情報基盤センター												3（2）	3（2）
北方生物圏フィールド科学センター				1（1）								3	4（1）
高等教育推進機構												4（3）	4（3）
合計	61（24）	0	158（78）	10（6）	0	0	25（12）	2（1）	692（360）	20（9）	605（254）	155（72）	1,728（816）

日本語研修生等

高等教育推進機構	日本語・日本文化研修生		日本語研修生		合計
	国費	私費	国費	私費	
	16（9）	20（14）	3（1）		39（24）

外国人留学生総数（「留学」以外の在留資格の者を含む）

学部留学生数	大学院留学生			研究生等	日本語研修生 日本語・日本文化研修生	留学生総数	外国人学生（「留学」以外）	留学生及び外国人学生総計
	修士課程	専門職学位課程	博士課程					
179（74）	753（384）	20（9）	788（344）	278（137）	39（24）	2,057（972）	47（29）	2,104（1,001）

＊（　　）内は女子を内数で示す
＊修士課程には博士前期課程を，博士課程には博士後期課程を含む
＊研究生等には特別研究学生及び特別聴講学生を含む

（学務部国際交流課）

令和３年度国別外国人留学生数

令和３年５月１日現在

地域	国名（地域名）	国費留学生 学部 学士	国費留学生 学部 研究生	国費留学生 日本語・日本文化研修生	国費留学生 日本語研修生	国費留学生 大学院 修士	国費留学生 大学院 専門職学位	国費留学生 大学院 博士	国費留学生 大学院 研究生	国費留学生 小計	外国政府派遣留学生 学部 学士	外国政府派遣留学生 大学院 修士	外国政府派遣留学生 大学院 専門職学位	外国政府派遣留学生 大学院 博士	外国政府派遣留学生 大学院 特別研究学生	外国政府派遣留学生 小計	私費留学生 学部 学士	私費留学生 学部 研究生	私費留学生 学部 特別聴講学生	私費留学生 日本語・日本文化研修生	私費留学生 大学院 修士	私費留学生 大学院 専門職学位	私費留学生 大学院 博士	私費留学生 大学院 研究生	私費留学生 大学院 特別研究学生	私費留学生 大学院 特別聴講学生	私費留学生 小計	総計
アジア	インド					6(3)		8(3)	1	15(6)							1(1)				10(2)		20(9)	2(2)	1(1)		34(15)	49(21)
	インドネシア	1(1)		1		5(4)		11(5)	1(1)	19(11)							3(2)		3(1)	1	6(3)		15(2)				28(8)	47(19)
	カンボジア	1				1(1)		1(1)		3(2)											3		4(1)				7(1)	10(3)
	シンガポール							1(1)		1(1)							2				2			1			5	6(1)
	スリランカ			2(2)		1		3(1)		6(3)									2(1)				6(5)				8(6)	14(9)
	タイ	1(1)		1(1)		4(1)		10(6)		16(9)							9(4)			1	8(2)		19(10)		2(2)		39(18)	55(27)
	台湾																7(5)		11(6)	1(1)	15(8)		24(12)	1	3(2)	2	64(34)	64(34)
	大韓民国	31(3)		1		1		2(2)		35(5)							12(3)		6(4)	3(1)	25(8)		32(11)	3(1)			81(26)	116(33)
	中華人民共和国			1(1)		2(2)		23(9)	5(3)	31(15)				25(12)	2(1)	27(13)	41(17)	65(34)	6(2)	10(9)	584(321)	18(8)	360(162)	119(56)	8(3)		1,211(612)	1,269(640)
	ネパール							3(1)		3(1)																		3(1)
	パキスタン					2		2		4							2(1)										2(1)	6(1)
	バングラデシュ					4(1)		13(4)	1	18(5)											3(3)		17(7)				20(10)	38(15)
	フィリピン	1				1		7(1)		9(1)							1				3(2)		8(3)				12(5)	21(6)
	ブルネイ					2		1(1)		3(1)																		3(1)
	ベトナム	1(1)			1	2		6(2)		10(3)							3(1)				1(1)		13(4)				17(6)	27(9)
	マレーシア					1(1)		5(3)		6(4)							2(1)				1(1)		8(4)				11(6)	17(10)
	ミャンマー			2(2)		2(2)		6(5)		10(9)							1(1)				3		2(1)				6(2)	16(11)
	モンゴル	1	1					4(4)		6(4)							2(2)		1		4(2)		8(4)				15(8)	21(12)
	小計(18カ国・地域)	37(6)	1	8(6)	1	34(15)		106(49)	8(4)	195(80)				25(12)	2(1)	27(13)	86(38)	65(34)	29(14)	16(11)	668(353)	18(8)	536(235)	126(59)	14(8)	2	1,560(760)	1,782(853)
中東	アフガニスタン							1(1)		1(1)																		1(1)
	イラン	1(1)								1(1)													1				1	2(1)
	クウェート							1		1																		1
	サウジアラビア																						7				7	7
	トルコ							1(1)		1(1)													1(1)				1(1)	2(2)
	ヨルダン																						1				1	1
	小計(6カ国)	1(1)						3(2)		4(3)													10(1)				10(1)	14(4)
アフリカ	アンゴラ							1		1																		1
	ウガンダ	1								1																		1
	エジプト					1(1)		3(3)		4(4)													4(2)		1		5(2)	9(6)
	エチオピア																				1		1(1)				2(1)	2(1)
	ガーナ							1		1													1				1	2
	カーボヴェルデ							2		2																		2
	ガンビア																				1						1	1
	ケニア							1(1)		1(1)							2(1)										2(1)	3(2)
	コンゴ民主共和国							1		1													3				3	4
	ザンビア					2(1)		4(2)	1(1)	7(4)											1		7(1)	1			9(1)	16(5)
	ジンバブエ																						1				1	1
	スーダン							1(1)		1(1)																		1(1)
	タンザニア							2(1)		2(1)													1(1)				1(1)	3(2)
	チュニジア							1(1)		1(1)																		1(1)
	ナイジェリア	1				4(2)		2		7(2)											1		13(2)				14(2)	21(4)
	ナミビア																1(1)										1(1)	1(1)
	ブルキナファソ							1		1																		1
	ベナン																						1(1)				1(1)	1(1)
	マダガスカル							2(1)		2(1)													1				1	3(1)
	マラウイ							2		2											1		1(1)	1			3(1)	5(1)
	南アフリカ					1				1																		1
	南スーダン				1					1																		1
	モーリシャス																						1(1)				1(1)	1(1)
	モロッコ																1						1(1)				2(1)	2(1)
	小計(24カ国)	2			1	8(4)		24(10)	1(1)	36(15)							4(2)				5		36(11)	2	1		48(13)	84(28)
大洋州	オーストラリア					1(1)		2(2)		3(3)																		3(3)
	トンガ				1(1)	1(1)				2(2)																		2(2)
	ニュージーランド																1										1	1
	パプアニューギニア					2(1)				2(1)																		2(1)
	フィジー					1(1)				1(1)											1		1				2	3(1)
	小計(5カ国)				1(1)	5(4)		2(2)		8(7)							1				1		1				3	11(7)
北米	アメリカ合衆国	2				1		3(2)		6(2)							11(6)				3(1)		3(1)				17(8)	23(10)
	カナダ	1								1							3(2)						1				4(2)	5(2)
	小計(2カ国)	3				1		3(2)		7(2)							14(8)				3(1)		4(1)				21(10)	28(12)
中南米	アルゼンチン					1		1(1)		2(1)																		2(1)
	ウルグアイ					1				1																		1
	エクアドル								1(1)	1(1)																		1(1)
	グアテマラ					3		1(1)		4(1)																		4(1)
	コスタリカ																1(1)										1(1)	1(1)
	コロンビア																		1								1	1
	ジャマイカ							1		1																		1
	ニカラグア					1				1																		1
	ハイチ							1		1																		1
	バルバドス																1(1)										1(1)	1(1)
	ブラジル	1(1)		1		2				4(1)									1			1	1				3	7(1)
	ベネズエラ	1(1)								1(1)																		1(1)
	ペルー							1		1																		1
	ホンジュラス					1				1																		1
	小計(13カ国)	2(2)		1		9		5(2)	1(1)	18(5)							2(2)		2			1	1				6(2)	24(7)
ヨーロッパ	アゼルバイジャン							1(1)		1(1)													1	1			2	3(1)
	英国(イギリス)							1		1							4(1)			1	2(1)		1				8(2)	9(2)
	イタリア							1(1)		1(1)							1(1)						1		1	1	4(1)	5(2)
	ウクライナ			1				1(1)		2(1)																		2(1)
	ウズベキスタン					2		1		3																		3
	オランダ																2(2)										2(2)	2(2)
	ガザフスタン	1		1						2									1(1)								1(1)	3(1)
	北マケドニア																1										1	1
	キルギス																				4(1)		1				5(1)	5(1)
	ジョージア																						1				1	1
	スイス																			1(1)			1(1)				2(2)	2(2)
	スウェーデン																1(1)										1(1)	1(1)
	スペイン																1						2(1)				3(1)	3(1)
	スロベニア																1										1	1
	セルビア			1(1)				1		2(1)							1										1	3(1)
	チェコ							1		1																		1
	デンマーク																1(1)										1(1)	1(1)
	ドイツ																4(3)		4(3)		1				2(1)	2(2)	13(9)	13(9)
	トルクメニスタン																				1						1	1
	ノルウェー																						1				1	1
	ハンガリー							1(1)		1(1)							1(1)						1				2(1)	3(2)
	フィンランド			1						1							4(3)		3(3)		3(2)	1(1)	1(1)		1(1)	1	14(11)	15(11)
	フランス																2(1)		3(1)		3(1)		1				9(3)	9(3)
	ブルガリア																1										1	1
	ベラルーシ			1						1																		1
	ポーランド							1(1)		1(1)										1(1)							1(1)	2(2)
	ポルトガル							1(1)		1(1)																		1(1)
	ラトビア																						1(1)				1(1)	1(1)
	リトアニア			1(1)						1(1)																		1(1)
	ロシア		1(1)	1(1)		2(1)		5(5)		9(8)							1(1)		2(1)	1(1)	1(1)		4(2)		1(1)		10(7)	19(15)
	小計(30カ国)	1	1(1)	7(3)		4(1)		15(11)		28(16)							26(15)		13(9)	4(3)	15(6)	1(1)	17(6)	1	5(3)	4(2)	86(45)	114(61)
合計(97カ国・1地域)		46(9)	2(1)	16(9)	3(1)	61(24)	0	158(78)	10(6)	296(128)	0	0	0	25(12)	2(1)	27(13)	133(65)	65(34)	44(23)	20(14)	682(360)	20(9)	605(254)	129(59)	20(11)	6(2)	1,734(831)	2,057(972)

※（　）内は女子の数で内数

（学務部国際交流課）

編集メモ

●「北大牛乳」コラボ続々！

北方圏フィールド科学センターの農場にて飼育されている牛から搾った「北大牛乳」を使用したメニューが，札幌市内のホテルや飲食店でもコラボメニューとして登場しています。

まず一つ目は，京王プレリアホテル札幌の朝食ブッフェ。「北大牛乳」を使用した「牧草ロールケーキ」と，「白いスープ」が朝食ブッフェにて提供されます。

参考：https://www.mcip.hokudai.ac.jp/
（産学・地域共同推進機構ウェブサイト）

二つ目のコラボは，「RITARU COFFEE」（北３条西26丁目）にて登場した，夏限定の爽やかな「北大牛乳」アイス，RITARU COFFEE JELLY，濃厚な山中牧場牛乳を使用したアフォガートゼリーフロート。

夏の北大牛乳ならではの爽やかな風味が，同店での人気のブレンド「RITARU BLEND」を使用した香り高いコーヒーゼリーと濃厚な山中牧場牛乳と合わさり，大人の味わいです。ゼリーと北大牛乳アイスのみのバージョンもあり，どちらもテイクアウト可能とのことです。是非ご賞味ください。

参考：https://www.ritaru.com/pc/index.html#dessert
（RITARU COFFEEウェブサイト）

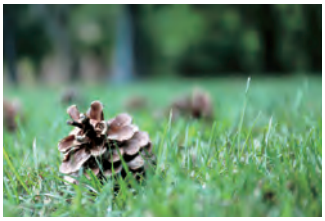
●緊急事態宣言下のキャンパス

６月20日（日）まで緊急事態宣言が延長され，人足の少ない本学構内の様子。

裏表紙でも紹介したタンポポの綿毛やポプラの種のほか，緑が濃くなってきた芝生の絨毯に松ぼっくりが転がり，夏の始まりを告げています。

そんな夏めく構内では今こそチャンスだ！と気合を入れた鳩たちがきれいな花に目もくれず，ポプラの種を真剣に食べています。

鳩には申し訳ないですが，人が集う賑やかなキャンパスが待ち遠しいですね。



裏表紙メモ

今月のキャンパス風景はインフォメーションセンター「エルムの森」テラス裏のタンポポです。
６月に入ると春を知らせてくれた黄色の花のタンポポが，いつの間にかフワフワと白い綿毛になり，キャンパス内を空中散歩している様子が見られるようになりました。もう季節は初夏。タンポポの綿毛のように，軽やかに過ごしたいものです。

キャンパス風景 15 インフォメーションセンターエルムの森（北8条西5丁目付近）

北大時報 ⑥　No.807　　令和３年６月発行

北海道大学総務企画部広報課　〒060－0808 札幌市北区北８条西５丁目
TEL：（011）706－2162 ／ FAX：（011）706－2092 ／ E-mail : kouhou@jimu.hokudai.ac.jp
北大時報はインターネットでもご覧いただけます。https://www.hokudai.ac.jp/pr/publications/jihou.html